



大洲高校 PTA 月報

令和 8 年 6 月号

各学年主任より

「 挑戦 」

第 1 学年主任 飛田 亜希

緊張した面持ちで期待に胸を膨らませて迎えた入学式から 2 か月が経ちました。入学当初はテストやオリエンテーションなど過密な日程が続き、緊張がなかなか解けない様子でしたが、今では高校生活にも慣れ、持ち前の元気さと明るさで、授業や部活動に取り組む様子が見られるようになりました。集団研修や遠足などの学校行事の振り返りからは、仲間と協力することの大切さや、様々なことに挑戦したいという高い意欲を見ることができました。また、伝統をしっかりと受け継いでいる、気持ちの良い挨拶やけじめのついた集団生活も 1 年生の良い一面だと思います。

3 年後の大きな目標を達成するためには、今日 1 日、今週 1 週間の小さな目標を設定し、挑戦や努力を積み重ねていくことが大切です。3 学科となった本年度の 1 年生は、学科の特性を生かした学科間の交流を通して、さらにその積み重ねのチャンスが増えることとなります。自分の挑戦や、仲間の挑戦を応援しながら互いに高め合い、かけがえない高校生活を有意義に送ってほしいと思います。保護者の皆様、1 年団一丸となって取り組んで参りますので、御指導、御協力よろしくお願いいたします。

「 論理国語の教材から～対話と弱いつながり～ 」

第 2 学年主任 森永 友子

2 年生の論理国語では、学科ごとに異なる教材を扱いました。商業科では「対話について」、普通科では「弱いつながり」を学びましたが、どちらの教材にも共通して「他者との関係」というテーマが流れています。これらの学びは、今年度の 2 学年の目標である「主体性を高め、仲間とともにより高い成果を生み出す」ことに深くつながる大切な視点を示していると感じています。商業科で扱った「対話について」では対話が人間関係を築き、社会をより良くする力になることが語られていました。一方普通科の「弱いつながり」では、強い絆だけでなく、日常の中にある希薄な関係が新たな可能性を広げるといふ、興味深く意外性のある視点が提示されていました。生徒たちにとって、自分の世界を広げるきっかけとなる学びになったことと思います。

こうした日々の授業で得た気づきや学びを生かしながら、2 年生が仲間とともに挑戦を続けさらに大きく成長してくれることを期待しています。

「飛翔！藤樹先生を胸に！」

第 3 学年主任 大本 將人

藤樹先生は偉大な学者ではありませんが、それだけではなく村人と共に生きた人でした。日々汗を流して働き、親に仕え、妻や子を労わる村人を心から尊んでいました。些細なことであっても、村人の美しい行いは先生の喜びでした。悪いことをする者がいても、本当の姿に帰れと叱り励ますのでした。川に橋を架けようとする、瞬く間に村人が集まり橋ができました。荷車が動けなくなっているのを助けようと先生が動くと、周りからたくさんの村人が集まってきました。

ここに「目指すべき人の姿」があると私は思います。求めてくる人にのみ教えていた先生でしたが、なぜか名声は高まり「近江聖人」という名が後世にまで伝えられました。熊沢蕃山、大塩平八郎、吉田松陰とその流れは続き、明治維新へと繋がり、近代日本がつくられる源泉にもなりました。

何も藤樹先生のような立派な学者になれと言っているのではありません。どんな職業、どんな道でもいいので、清廉潔白に生き、人が喜ぶ仕事、人が楽しめる仕事、人のためになる仕事をしてほしいと思います。そして、藤樹先生のように、周囲の人への感謝や愛情を注ぐ生き方を実践してください！それが「至徳堂」のある大洲高校を巣立って羽ばたく卒業生の責務だと私は思います！